

明治三十八年

(二月)

一月一日 庚子 日曜 四方拝。晴。

朝五時起。四方拝。如例、食堂にて雑煮を祝ふ。塾生越年のもの七名、皆共に椒酒を汲て本年の第一日を祝ふ。畢而一同、六の教場にて君か代を三唱して陛下の万歳を祝す。それより氷川神社に参詣して帰。賀客続々来。観世来て新年山の新作謡初する。夜二時、宮内省より電話にて、旅順陥落御知らせあり。一同狂奔する。

一月二日 辛丑 月曜 晴。

朝、雑煮を喫して、姉小路五軒町え年礼二行。午前十時頃より旅順陥落の号外、市中かまびすし。実に世間一変して雑沓極りなし。

一月三日 壬寅 火曜 晴。

早起。散歩して帰。午前十時より、余、愛四郎と同道、大森え行。祝酒饗応にて、午下五時より津田夫婦と共に東京市の祝捷を電車にて観る。花電車のイルミネション、五、六台も続きたる、実に奇麗。三越、白木屋の辺、見もの也。上野迄景況を見て本郷にて津田夫婦にわかれて帰。八時過。

車出、新はし迄。

発 車夫え五十銭。津田下婢え一円。

\*新はし(新橋)

一月四日 癸卯 水曜 晴。

朝、散歩して帰。午下早々年礼に行。北白川宮、閑院宮、東伏見宮両殿下久々にて拝謁、三条家。来客、姉小路延子、跡見玉枝、其外十三人。市中景況雑沓を究む。

車出。

閑院宮様より帶地一卷。

發 車夫え五十錢。

受 東伏見宮、金千疋。

\*究む(極む)

一月五日 甲辰 木曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、来栖篤子、其母、田島春。書をよす、房州李子え衣類其外を送る。房州より電報、姉小路危篤。五軒町え愛四郎かけ付る。

来栖より、フラネル一反。

受 来栖氏より金五円。

一月六日 乙巳 金曜 晴。

入寒。重威、朝一番汽船にて渡房する。朝、散歩して帰。泰、鶴子、弘三人連にて大森津田氏え年礼に行。午下三時頃より雨降り出したり。夜大雨。夜、万里正秀氏より電話にて、陛下より特志を以て位一級を進めらる。従二位贈位。是も先代の御功勞によりての事也。

愛国婦人会より軍人え贈る端書二千枚申込む。

一月七日 丙午 土曜 晴。

人日。七草の御祝義御粥を喫す。朝、宮内省え電話にて良子様え参る事を伺ふ。今日都合よしと答あり。午前より参る。先此度の千歳一遇なる新年の御祝義申上ル。夫より又々、予にみせるへき物ありとて長州の香取氏所持なる巻物を拝見す。かねて月頃日頃尋ねし、先姉小路公知公の関東御勅使の砌、日下玄瑞始え贈らせられたる御書拝見致し、是社以前三条太上天臣公より予え御見せに成たる御真筆にて、是社千歳の一遇とも申へき。夫二付、種々御咄し共有之て、感涙を流し候。三時過退出す。本日、東京市の祝捷会、日比谷公園の景況を見て帰。五時、房州より電報、姉小路午後二時五十分コトギレ。

發 良子様女中え金五円。

受 良子様より五百疋。

\*御祝義(御祝儀) \*千歳一遇(千載一遇) \*御祝義(御祝儀) \*社(こそ) \*社(こそ)  
\*千歳の一遇(千載の一遇)

一月八日 丁未 日曜 晴。

明日の準備、姉家の事二付、終日**困雑**する。朝、散歩して帰。

\* 困雑 (混雑)

一月九日 戊申 月曜 晴朗。

朝、散歩して帰。新年始業式。午前九時揃、六教場にて。教員生徒着席。第一、君か代唱歌。第二、校長勅語奉読。第三、須川氏時局に対して地理の演舌。第四、校歌。次、三、四、五、研究の唱歌。式全畢。運動場にて縄引、面白し。十一時一同退散。事なく生徒の出席も多く賑々敷相濟たり。此日生徒え菓子、小鶴の餅五つ宛、紙に包んで出す。午下、姉小路へ行。良子様御下りにて、房州重威よりの書状にては今日遺骨を護して帰京の筈にて待居りたれと電報もなし。朝十一時電報にて聞合せたるに、午下三時返電、明日一番にて帰る。余、帰宅す。

一月十日 己酉 火曜 晴。

朝、散歩して帰。授業始をなす。予、午下姉家二行、直に靈岸島梅やに行、待合す。御迎ひの人々も多く、四時着。御遺骨に**迎ひて**只涙のみ也。直に御供して姉家二帰り、此夜通夜する。桃子も房州より帰。

車出、靈岸島迄往復。

\* 迎ひて (向ひて)

一月十一日 庚戌 水曜 晴。

朝六時帰宅す。授業如例。

一月十二日 辛亥 木曜 晴。

朝、散歩して光円寺え住職に逢て帰。不計、腸に**下利**を起しなやむ。授業如例。此日より臥腸カタルにていたみ通して苦痛**絶難く**、医師も度々来られる。

\* 下利 (下痢) \* 絶難く (堪難く)

一月十三日 壬子 金曜 晴。

予、病益甚しく、本日姉小路公義殿御葬式なから会葬もならず、残念々々なから打臥のみ。聞

処に依れば、此葬送、実に立派にて会葬者も伝通院本堂一はいと云。すへてよく行届たり。何も良子様の御陰也。来客、堀田伴子様、病氣御見舞下され枕辺にて種々御咄し、正子、愛治郎も仏法に入へき下最度ありて安心いたし候。夜九時帰られる。

\*一はい(一杯) \*下最度(下済度)

一月十四日 癸丑 土曜 雨。

予、病痔疾を引起していたみ甚し。医師為永、井深と両医にて養生する。此夜夢に、余、外国に行て、大なる山より麓にかけて地理書の様に銀の金具にて、「凶」—是何州々と印有て、人も数々立並んで、人衆の内に穢多も一むれに居て、余言ひ聞かせる事を謹んで居る。ソコデ余が大声にて言く、此すへての人民セン多羅に至る迄、我日本帝国の人民たる事相違なき者也、と大イナル棒標を山の上に立たり。此に至りて夢醒。吉夢なり。画をよす、驚、すみれ、博文館。

\*セン多羅(旃陀羅)

一月十五日 甲寅 日曜 雨。

病腸カタルハ止りきみに相成たれと、痔疾いたみ甚し。種々に手当怠らすいたす。此夜夢に、当字が不分ノ花明ナリ、日暮テ尚不凋、慥に聞得たり。来客、朝十時、毛利万子、小早川式子、枕辺にて久しく御咄しにて午下二時過御帰りになる。小木曾も来る。

\*止りきみ(止り気味) \*当(トウ)

一月十六日 乙卯 月曜

臥蓐。

一月十七日 丙辰 火曜 晴。

臥蓐。来客、泰義明日入営ニ付祝賀を申込為、人々餞別等を送らる。別宴を促す。重威、石山基陽、すま子、岡崎忠子、豊田市五郎、大炊晨子、北村、山形きく、駒女にて賑々敷事也。余も席に就く。一同九時帰。

\*泰義(泰儀)

一月十八日 丁巳 水曜 晴。

朝七時、泰、目出度出門す。送り人も大勢にて賑々敷事也。上野汽車場ニは朋友も沢山来りて、赤羽迄も送りたると云。

(二月十九日〜二十一日、記載ナシ)

一月二十二日 辛酉 日曜 雨。

臥蓐。来客、毛利万子、小早川式子、朝十時ニ御出にて枕辺にて種々御咄し、画の御直しをする。午下二時去。小木曾氏も来る。此夜、夢に、先世間大掃除にてわれも箒を持って門前の掃除する。何故なるかと云と大葬送御通行と云。崩御らしく思はれて今此時勢にてかゝる事の有ては大変なりと痛苦おく能はず。其内又一睡すると伏見宮と云声の聞えて夢醒る。

一月二十三日 壬戌 月曜

休業。床払する。

一月二十四日 癸亥 火曜

休業。

一月二十五日 甲子 水曜 晴、風。

課業如例。来客、角田真平氏紹待して、昨年満洲丸にて観戦致されたる実見談を生徒に聞かせたる也。后一時ヨリ始めて四時半迄の演舌、実に戦争の惨状見る如く、聞くもの皆涙を流し、又ハコツケイも有り、其弁舌抑揚ありて実に名舌也。三時間に渡りてもあく事なき也。

\*紹待(招待) \*コツケイ(滑稽)

一月二十六日 乙丑 木曜 晴。夜に入雨となり、又雪となり豪雨となり、終夜降つゝ。

課業如例。来客、大炊家政君予の見舞とて蓄音器御もたせにて此度ハ平面番にて、尽く新曲物面白く、生徒一同にもよろこばせたり。夕飯後迄も大く賑々しくて、岡崎忠子、国良君も御出にて、九時帰られる、河津敏子。

\*平面番(平面盤)

一月二十七日 丙寅 金曜 晴。

課業如例。来客、観世母。夜、腰湯する。姉従二位殿三七日、授業にて参られず。  
発 為永え挨拶、金五円。わた田氏え同千疋。豊美え同一円。

\*わた田氏(綿田氏)

一月二十八日 丁卯 土曜 雨。49(度)。

(コノ日、記事ナシ)

一月二十九日 戊辰 日曜 晴。

来客、九条恵子、広瀬淑子母。

受 九条恵子、金千疋。

一月三十日 己巳 月曜 晴。40(度)。

小包出、遠藤義為、青木久衛、御寺御所、吉田滝子、関一郎、坂東大宣。桃子、夜九時大森より帰。泰、午下二時半始而隊より帰る。カーキ色の服にて出征と究る。一同隊の様子も委細聞たるに、思ひの外に勤めよく先々楽しみの様子にて、昼飯喫しつゝ一時間の閑話にて帰宮する。一同大安心也。

\*究る(極る)

一月三十一日 庚午 火曜 陰。40(度)。

課業如例。

(二月)

二月一日 辛未 水曜 陰。夕景より雪降り出し、みるまに白皚々銀世界をなす。40(度)。

課業例の如し。来客、酒井夏子夫人、石山すま子二宿。

受 博文館、金五円。

二月二日 壬申 木曜 晴。雪積む事三寸ばかり。42 (度)。

課業例の如し。来客、志賀重昂、過日旅順より帰朝にて觀戰講話ありて実況を聞く。すま子、この朝帰。為永氏。

二月三日 癸酉 金曜 節分。晴。39 (度)。

課業如例。来客、今津久子、岡本氏。余、午下二時より三河台山内家二行。一年ふり旭花様と御話しにて時を移す。御三度戴て五時過行。

車出、麻布三河台。

二月四日 甲戌 土曜 晴。

旧一月一日。朝、散歩して姉小路及重威を問て帰。来客、岡崎忠子 秋山信子入門願出ル、女子美術学校役員。

二月五日 乙亥 日曜 晴。48 (度)。

朝、散歩して帰。講堂に於て大茶会する。松田宗匠、万里伯。愛四郎、正子、鶴子、始て田中氏え行。泰、帰宅する。三時過帰宮。画をよす、汐干の家つと、曲水の宴、博文館。

二月六日 丙子 月曜 晴。49 (度)。

早起。散歩して帰。課業如例。来客、山内八重子様。受 長井利右衛門、金老円。

二月七日 丁丑 火曜 晴。三日月をみる。32 (度)。

課業例の如し。愛四郎夫婦、鶴子、田中氏え行く。木津跡見氏より奈良漬一樽、こより豆腐、そらまめ、昆布、小包着。

\*こより豆腐(凝豆腐)

二月八日 戊寅 水曜 晴。36 (度)。

課業例の如し。午前十一時より高樹町に行。五時帰。正子大森え行、一宿。

車出、高樹町。

発 訓解四冊分、金二円。

二月九日 己卯 木曜 晴。32 (度)。

課業例の如し。書をよす、跡見法城、長井利右衛門、毛利万子、岩上愛子、小野鍬子。来客、毛利国子夫人久々にて御出、種々物語りして四時比帰られる。正子、夜に入て帰。

二月十日 庚辰 金曜 晴。38 (度)。

課業例の如し。来客、石山基陽、岡崎忠子、橋岡。夜、かるたにて賑々しい。皆九時比帰る。

\*かるた(カルタ)

二月十一日 辛巳 土曜 晴。42 (度)。

午十二時より新宿石山家及大炊御門家政氏を訪て帰。愛四郎、わした、大森津田の催しにて杉田の看梅に船遊ひして一宿。泰、帰宅して三時頃帰營する。

車出、新宿。

発 石山家婢、大炊家婢え一円。若狭かれ三枚、五十五箋。

\*わした(鷺田) \*若狭かれ(若狭鱒) \*箋(錢)

二月十二日 壬午 日曜 晴。48 (度)。

正午より、余、正子、鶴子、弘と同しく観世稻荷祭りに行。夜八時帰。愛四郎、わし田、午下四時帰宅す。

車出、新小川町迄。

\*わし田(鷺田)

二月十三日 癸未 月曜 陰、晴。42 (度)。

早起。墓参して帰。

二月十四日 甲申 火曜 晴、陰。

早起。墓参して帰。本日横浜津田弘視より書至。ミネソタ巨船横浜に宿泊ス。海国の女子明日

一覽如何と云。電話にて答、明日生徒室母連て行、十二人也、昼弁当の用意頼む。来客、**重た**け。

\*重たけ(重威)

二月十五日 乙酉 水曜 晴朗。50(度)。

早起。室母等、愛治郎、桃子と十二人連にて電車にて、新橋迄、夫より汽車にて十時廿分発。天ハ晴朗、風なく暖気にて三春之風色、皆歡喜に不堪。やかて大森二着。栄子待受居りて同車にて横浜ダブル商会二行。津田氏停車場迄迎ひに来る。右商会にて休憩、千歳楼に案内して昼餐を喫して、小蒸汽にて行。実に巨船未曾有也。二万一千トン。第一番上に登りて、夫より段々と下に行。船とも思はれず、客室も書籍室、食堂、実に美尽せり。宏大なるもの也。観覧人にて雑沓極まれり。漸元の小蒸汽に乗して、又独乙マンチウル巨船を観る。一万六千トン。是縦覧人もなく静に、尽く観覧してダブル商会二帰り、五時何分の汽車にて、津田夫婦も同行、汽車中も大に楽しく愉快を**究めて**、八時過無事帰校す。

\*究めて(極めて)

二月十六日 丙戌 木曜 晴。50(度)。

課業例の如し。来客、千家信子、志賀氏講話アリ。

受 潤筆、壹円。

二月十七日 丁亥 金曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例。

二月十八日 戊子 土曜 晴、風。

朝、墓参して帰。課業例の如し。

二月十九日 己丑 日曜 晴。

早起。有約。朝九時石山須磨子来られ、余、及弘と三人同行にて本郷より電車にて大森津田氏二行。十二時也。昼飯を喫して二時過より弘視夫婦同道にて蒲田二行。旧廿年前、小松宮、北白川宮御息所御同道にて此蒲田の御観梅あらせられ、席上の御合作なる風流なる御遊ひにて、

其旧を思ひ出して有感。今ハ両宮共世にあらせ給はず、かなしい哉。梅ハ四分の咲出たる。看  
梅客は盛なり。園中逍遙して茶亭にいこひて津田氏ニ帰る。五時十二分の汽車にて帰。すま子、  
弘も八時過帰宅す。来客、泰、橋本町子。  
発 汽車代、六十錢。しそひしほ、十五錢。

\*しそひしほ (紫蘇醬)

二月二十日 庚寅 月曜 晴。

早起。庭園雪皚々、積事二寸余。課業如例。来客、田島春子、岡崎忠子。

二月二十一日 辛卯 火曜 晴。

課業例の如し。朝、五軒町姉小路を訪て帰。書をよす、上海佐々木十一子、岩浪稲子、岩上愛  
子。

二月二十二日 壬辰 水曜 天陰、已而晴。

休業。朝九時半ヨリ、余、愛四郎、正子、桃子と同しく、光円寺二行。姉小路公前卿五十年忌、  
同公義君五十日法事ヲ同寺に執行せらる。権典侍良子様も御参詣、親族知己多人数ニテ盛なる  
法会也。一時、読経畢、墓参。直に五軒町姉邸ニ至る。男客ハ姉邸、女客ハ重威宅にて昼餐。  
すへて叮嚀に。午下四時食事畢而各退散ス。良子様御一泊。小包出、清国佐々木氏、梅野くら  
子、横浜 (二字空白) 雪子、岩浪氏。書至、津田栄子。  
車出、光円寺及姉小路行。

二月二十三日 癸巳 木曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。書をよす、津田栄子え。来客、島田信子。

二月二十四日 甲午 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、大森、安田妻、浅野時子。書をよす、八丈島島田静子。

二月二十五日 乙未 土曜 晴。

朝八時頃より挙家堀田家二行。夜九時帰。

二月二十六日 丙申 日曜 晴。空曇りかちなり。夜雪ちらつく。

朝、挙家堀田家二行。夜二入而帰。来客、津田夫婦。夕飯を饗す。九時帰。

二月二十七日 丁酉 月曜 雪、雨。昨夜より雪積る事二寸。今朝より終日雨。

課業例の如し。愛四郎、正子、鶴子、朝より深川に行。午下四時帰。

二月二十八日 戊戌 火曜 晴。

朝七時より深川堀田家二行。余、愛四郎、正子、鶴子同行。午下四時過帰。石山すま子、基陽も岡崎忠子と同じく帰宅。夕飯済せて八時半皆帰られる。

(三月)

三月一日 己亥 水曜 晴。39 (度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、今津久子、雛祭りする。

受 博文館、金五円。

三月二日 庚子 木曜 晴。39 (度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。書画揮毫ものする。来客、宮本時子母。靖子、早苗節句二付来る。石神井稲も子供連而来る。書をよす、長井氏、谷山たに。

受 宮本氏潤筆、拾円。

三月三日 辛丑 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。雛の前にて小供等馳走する。来客、津田夫婦大森より来る。新雛大ゐに饗応する。夜九時帰。

\*小供等(子供等)

三月四日 壬寅 土曜 雪、雨。

(コノ日、記事ナシ)

三月五日 癸卯 日曜 晴。

朝、散歩して帰。余、桃子と同じく午下一時より電車にて歌舞妓座へ行。津田氏の招きにて十五、六年ふりの劇場を見る、また珍らし。顔のしるたるものはわつかに三、四人位にて皆幼稚の心地しておかし。夜九時帰。  
車、本郷まで。

\*歌舞妓座(歌舞伎座) \*しるたるもの(しりたるもの)

三月六日 甲辰 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

来客、岡崎忠子、石山基陽、岡崎国良。雛の前にて名残の歌るた会する。九時頃、皆帰。

発 羽織裏地、三河や、五円五十箋。

\*歌るた会(カルタ会) \*箋(銭)

三月七日 乙巳 火曜 晴。

朝、散歩して墓参。五軒町を問ふ。課業例の如し。午下早々愛国婦人代表者にて音羽護国寺二行。宮内大臣田中夫人葬式会葬す。総理大臣、其外大臣方、各国公使夫人、其外会葬者の多き、実に盛也と云ふへし。四時帰。

車出、護国寺まで。

発 山形きくへ金九円。

三月八日 丙午 水曜 晴。

課業例の如し。午下二時より散歩して姉伯を訪ふ。権典侍様御下りにて種々御咄し申上、夕餐を喫して帰。本日は貴賓会より西洋婦人の望にて画の教授と茶の教授參觀したき願二付、其準備したるに、昨夜より風邪にて断られたり。愛治郎はしめ高樹町に行く。日暮帰。

三月九日 丁未 木曜 陰、陰より後はれたり。

課業例の如し。来客、小村文子。

号外、奉天占領。

まちに待しも思ひの外に早きに驚きたり。直に門に提灯を掲げる。来客、志賀氏講話アリ。

三月十日 戊申 金曜 晴。

課業例の如し。午下二時より閑院宮御殿へ参る。御息所様、姫宮様かた、御拝謁する。姫宮様かたも御風気も御よろしくて安心す。やゝしはらく御話し申上で、御八ツをいたゞきて帰る。また北白川宮様うかゞふ。富君様にはいまた葉山に成らせられる。恒久殿下御風気様にて、おいね様に逢てしはらく咄して帰る。正子、石山基則子の一周忌夜とき方ニ出たり、一泊。夜八時、宮内省より電話にて、愈奉天占領。又十一時電話にて撫順占領。車出、麴町行。

\*恒久殿下(恒久殿下)

三月十一日 己酉 土曜 陰。

記事なし。夕かた、正子、弘帰。

三月十二日 庚戌 日曜 晴。60(度)。

朝九時より、余、桃子と同じく、電車にて深川堀田氏へ行。研究会也。晚餐を喫して帰。来客泰、隊より帰、直ニ隊に帰る。余、不在にて不逢。

三月十三日 辛亥 月曜 雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

三月十四日 壬子 火曜 晴。

課業如例。訃音、浜貞子、昨朝四時十五分死去。余、午下浜氏え悔ニ行。両親にも逢ひ、其なけき一方ならず。実に惜しみても猶余りあり。暫時にして暇を告て帰。帰途土方伯を訪ふ。幸御在邸ニテ良暫く旧を話して帰。車出、林町まで。

\*なけき(嘆き)

三月十五日 癸丑 水曜 晴。朝、雨、已して晴。あたゝかし。  
課業例の如し。墓参して帰。愛国婦人会第四総会を祝しての哥二首を贈る。愛四郎、浜貞子の葬に会す。

発 愛国婦人会端書二千枚分、金九円。

三月十六日 甲寅 木曜 陰。

課業例の如し。昨夜一時廿分、鉄岑占領。

\*鉄岑（鉄嶺）

三月十七日 乙卯 金曜 昨夜、雨しきりなり。朝また雨及雪ちらつき、已而午時晴。

課業例の如し。

三月十八日 丙辰 土曜 陰。

午下早々高輪毛利家二行。万子様、愈廿五日御入輿二付御祝持参する。安子様、万子様も大／＼御悦にて、暫時御咄して帰。東京市祝捷会、日比谷辺雑沓。

三月十九日 丁巳 日曜 晴。

本日ハ泰帰宅ニ付、津田夫婦も暇乞に来る。石山すま子、岡崎忠子も御出にて賑々しく、四時頃泰も帰営。津田夫婦、愛治郎、弘、鶴子、君子も上野辺へ行。余等、植物園の梅花を見て帰夜、はし岡来る。来客（以下記述ナシ）

\*はし岡（橋岡）

三月二十日 戊午 月曜 陰。午下五時頃より雨、夜しきりにふる。  
課業例の如し。午下、桃子、正子、小学生四人を拉して新宿御苑に遊ぶ。五時頃より雨ふり出して六時過帰。

三月二十一日 己未 火曜 雪。朝より雪、又雨。雪も大雪二寸位。

春季皇霊祭。祖先祭執行す。本日ハ増田氏大師会に行つもの処、雪にて断る。朝より泰帰宅して、三時半帰営する。上宮会、絹本豎物墨梅揮毫す。

三月二十二日 庚申 水曜 晴。38 (度)。  
課業例の如し。墓参して帰。

(三月二十三〜三十一日、記載ナシ)

(四月)

四月一日 庚午 土曜 雨。  
朝、散歩して帰。

(四月二日、記載ナシ)

四月三日 壬申 月曜 雨。  
朝、散歩して帰。

四月四日 癸酉 火曜 陰。  
朝、散歩して帰。来客、田村長子。

四月五日 甲戌 水曜 陰。  
朝、散歩して帰。本日より新入生来る。受附、実に雑沓を極む。本年ハ未曾有の入学にて、塾ハ満員相成たり。

四月六日 乙亥 木曜 雨。  
朝、散歩して帰。授業始をなす。来客、柏原室子。

四月七日 丙子 金曜 晴。  
課業例の如し。来客、大河内久子。

四月八日 丁丑 土曜 晴。

課業例の如し。午前十一時より高樹町に行。帰途、中山栄子様を訪問して、夜に入て帰。庭園桜花始て開、一、二りん。

高樹町往返、車出。

発 訓解五冊分、式円五十銭。

四月九日 戊寅 日曜 晴。

朝より来客、大橋光吉、酒井藤子、橋本太吉。天晴朗にて、桃子と同行散歩して五軒町を訪問する。皆不在。姉小路を問て帰。余誕生日二付、洋食をおごる。晚餐を喫す。

受 大橋氏潤筆、金廿円。

四月十日 己卯 月曜 晴。

課業例の如し。

受 清水氏潤筆、二円。

四月十一日 庚辰 火曜 晴。

早起。散歩して帰。課業例の如し。午下一時半より有約、中山栄子様へ行。途中、日比谷公園散歩して中山氏に行。素謡五番畢而夕餐を饗せられる。六時、電車にて帰。

日比谷迄、往車。

四月十二日 辛巳 水曜 晴。

早起。散歩して帰。江戸川の花も先三分位に咲出たり。課業例の如し。此日、正子、鶴子、貴君子、深川堀田氏へ行。

\* (貴君 (ママ) ) 子

四月十三日 壬午 木曜 晴、後雨。

課業例の如し。来客、片岡君子母、諸葛、幽香、里、宮本土季子、其母。午下四時より有約、井深楼上に家の花見を催されて挙家一同、重威も来る。四年ぶりの花見にて、楼上よりの花ハ

実に珍ら敷、講堂を白雲のつゝみたる其気色、得も言はれぬ有さま也。

四月十四日 癸未 金曜 雨。

早起。運動す。四方庭園桜花満開、極楽世界花の春なり。

(四月十五日〜十七日、記載ナシ)

四月十八日 丁亥 火曜 晴朗。

(コノ日、記事ナシ)

(四月十九日〜二十八日、記載ナシ)

四月二十九日 戊戌 土曜 晴。

来客つゞき。

(四月三十日、記載ナシ)

(五月)

五月一日 庚子 月曜 晴。昨夜雨。

課業如例。来客(コノ文、以下記述ナシ)。有約、斎藤誠之丞氏之招ニ付、余はしめ挙家五人、

不二見町★(立十青) 国神社之形況を見る。鳥居前なるイルミネション及拝殿左前なる弾丸台、

実に可驚。此境内、逍遙して不二見軒に行。誠之丞先在。仁子、梅子とは同行也。洋食饗応、

相互語り合、皆々歓を尽して、又九段坂下より電車にて帰。

本郷迄、車出。

\*不二見町(富士見町) \*不二見軒(富士見軒)

五月二日 辛丑 火曜 晴。

来客、万里通房、林良子、其伯父林氏、相川けい、高畑要子。余、下瀬氏を訪ふ。細君と暫時談話して河津氏を訪ふ。不在にて不逢。五軒町重威を問て帰。車出。

五月三日 壬寅 水曜 雨。

午下、閑院宮様に詣す。五月識り、御飾人形拝見す。暫時にして帰。時、雨ふり出したり。★  
(立十青) 国神社臨時大祭二付、三日四日二日間休業。東京市中、軒提灯、国旗をかゝける。  
永田町迄、車出。

\*五月識り(五月幟り)

五月四日 癸卯 木曜 晴。 ★(立十青) 国神社臨時大祭二付、軍人遺族慰藉の爲め、愛国婦人会より出席する事。

余、朝八時より愛国婦人本部に至り、又鳥居前なる陸海軍より下される徽章其外を渡す、軍人遺族に。陛下御名代伏見大宮、閑院宮智恵子殿下、御参拝あらせられる。又社前にて御杯、御菓子を渡す。午下五時過迄、此雑沓筆にも及はぬ有さま也。  
牛ヶ淵迄、車出。

五月五日 甲辰 金曜 晴。

課業例の如し。来客、英国婦人二人、通弁一人習画を觀る。已而帰、小野里君子、其母、大石妙子、其父。重たけ、いく子、明日渡房、いとま乞に来る。

発信 姉小路良子様え。木村よし子え。

\*重たけ(重威)

五月六日 乙巳 土曜 晴、夜雨。

朝、一番汽船にて渡房する愛治郎、正子、靈岸島にて送る。余、午前十時より義勇艦隊設置二付、寄附演劇執行二付、歌舞伎座二行、婦人部発起者にて終日接待する。夜八時帰。  
歌舞妓行、車出。

五月七日 丙午 日曜 雨。

来客、下瀬妻君。

五月八日 丁未 月曜 陰。天陰、又雨。  
課業例の如し。来客、福田芳子、木村好子。

五月九日 戊申 火曜 雨。  
余、午下より宮城姉小路良子様え参る。美尾の八重の義二付御礼申上る。暫時二時間御話し申上て去る。来客、橋岡。泰、帰宅して又帰隊す。  
宮城往返、車出。

発 是し岡え金五円。泰え二円。

\*美尾の八重(美尾野八重) \*義(儀) \*はし岡(橋岡)

五月十日 己酉 水曜 雨。  
課業例の如し。来客、斎藤常子。

五月十一日 庚戌 木曜 晴。  
課業例の如し。来客、北川富子母と其保証人。

五月十二日 辛亥 金曜 晴。はしめて天気晴朗、月も清くみたり。  
課業例の如し。午下一時より議勇艦隊演芸会の報告之為め、華族会館に催さる婦人部会員着席報告あり。畢而御すもし茶菓饗応。余興蓄音器。此中、余ハ帰宅。来客、岡崎忠子。

\*議勇艦隊(義勇艦隊)

五月十三日 壬子 土曜  
課業例の如し。朝、散歩して帰。

発 山形きくえ六円。観世え千疋。

五月十四日 癸丑 日曜 晴。

朝八時より観世二行、終日能をみる。祖先観阿の五百年祭事を執行す。五時畢て、大炊氏を訪

ふて帰。

発 観世え千疋、場代五円。

五月十五日 甲寅 月曜 晴。午下四時頃より雨になる。

課業例の如し。来客、大蔵松子、坂田公栄、酒井夏子。午下二時より毛利家二行。福田会の総会。安子様及元昭様にて御料理いたゞき、種々御咄して、六時帰宅す。

高輪迄、車出。

発 御菓子ヒスクイ二箱、金二円。

受 坂田氏より金三円。毛利氏より金七円五十銭。

\*ヒスクイ(ヒスクイ)

五月十六日 乙卯 火曜 晴。

来客。石山すま子、一宿。博文館大橋光吉氏、端書秋冬之分六枚遣す。

号外、

独逸江蘇沿岸の一港を占領す。独逸ハ軍艦を派遣し、水兵を以て江蘇省の海州口を占領し、祝砲を發し国旗をたてりとの報知。総督周馥より当地道台の許に達したり。目的ハ、ポー

ルチック艦隊を助け我艦隊を牽制する為めなりとの噂あれども、其目的の説ハ信じ難し。

芝罘五月十五日午後特電。

五月十七日 丙辰 水曜 陰。

課業例の如し。書をよす、三島兼子写真一枚、跡見重たけえ。

発 蝙蝠傘、五円五十銭。

\*跡見重たけ(跡見重威)

五月十八日 丁巳 木曜 雨。

課業例の如し。

五月十九日 戊午 金曜 雨。夜雨。

課業例の如し。大橋氏端書六枚揮毫成。来客、石山基陽、たるみ五郎。早苗、田舎より帰る。

書至、三島兼子。朝三時頃より大雨大雷。  
発 大橋氏潤筆料、廿円。

五月二十日 己未 土曜 曇。

課業例の如し。正午より田中氏二行而帰。斎藤梅子縁談斉候二付、其祝として白絹一反を贈る。  
桃子使に行。書至、[跡見重たけ](#)。

田中氏迄、車出。

\*跡見重たけ(跡見重威)

五月二十一日 庚申 日曜 雨。正午頃より晴。

朝八時半より★(立十青) 国神社境内能楽堂に行。喜多六平太催しの能をみる。余、桃子、す  
ま子。五時帰。

九段迄、車出往復。

受 [跡見重たけ](#)、いく子より。

\*跡見重たけ(跡見重威)

五月二十二日 辛酉 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、岩浪稲子。夕飯後、稲子、予、桃子同車にて日比谷迄  
送りて帰。

発 白地ゆかた三反。

五月二十三日 壬戌 火曜 晴。

朝、予、正子と同じく東京座二行。東京孤児院慈善演劇をみる。夜八時帰。来客、佐藤静子。  
三崎町迄、車出。

発 慈善切符代二枚、金三円四十銭。

五月二十四日 癸亥 水曜 晴。午下二時雷鳴。雨。四時頃より空晴わたりたり。

課業例の如し。来客、八十島とく子、岡崎忠子、すま子、[はし岡](#)。

\*はし岡(橋岡)

五月二十五日 甲子 木曜 晴。  
朝、散歩して帰。課業例の如し。

五月二十六日 乙丑 金曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

五月二十七日 丙寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、玉枝。

五月二十八日 丁卯 日曜 皇后陛下御誕辰。 晴。

朝、散歩して帰。皇后陛下の地久節を奉祝す。宮内省より大海戦大勝利の報告アリ。大炊家政君、**シヤンハン**持参して海戦の模様を説く。一同万歳を唱ふ。来客、狩野政子其母と御礼に来る、葉室氏、津田氏、但間きく、泰。

発信 房州跡見え。

\*シヤンハン(シヤンパン)

五月二十九日 戊辰 月曜 晴。 74 (度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午前八時半比、余、教授中、俄然容易ならざるすさまじき音する。南に当りて黒煙之中**火萌上る**。**炮兵工廠**火薬発烈。生傷多しと云ふ。所々より見舞来る。来客、石山基陽、千家信子。

大々海戦号外来る。対馬沖海戦大勝利、敵艦隊全滅、大快報。廿七日より廿八日に至る海戦にて撃沈、或ハ降伏捕虜三千と云。空前の大勝。帝国万歳。

発信 下の関下田すま子、御局登代え。

受信 房州跡見より、ごまめ着。

\*火萌上る(火燃上る) \*炮兵工廠(砲兵工廠)

五月三十日 己巳 火曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、武者小路万子、佐藤尚子。

五月三十一日 庚午 水曜 晴。夜雨。

来客、石坂松野、はし岡氏。

発信 はし岡え金五円。

\*はし岡氏(橋岡氏) \*はし岡(橋岡)

(六月)

六月一日 辛未 木曜 晴。朝雨、已而晴。

東京市大祝捷会ニ付休業す。当校も祝捷会を催す。此日より朝晩のマサツはしめる。

発信 中山栄子、茂木栄子、京都大聖寺。

\*マサツ(摩擦)

六月二日 壬申 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。故重孝十三回忌ニ付、墓参する。十時、光円寺読経。午下三時より、みな五軒町に行。余ハ二時より華族会館にて義勇艦隊男子女子部海戦祝捷を兼て茶話会に出席に。伊藤祐亨君の演舌、或ハ余興もアリ。大盛會也。予ハ五時帰、五軒町に行、夜八時帰。はしめて単物を着る。

\*出席(に(ママ)) \*伊藤祐亨君(伊東祐亨君)

六月三日 癸酉 土曜 晴。75(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下五時より斎藤梅子里開きの祝宴開られたるに付、芝紅葉館に行。媒介者三宅雄治郎就にて主客共みなしり人のみにて賑々しく、九時帰。来客、関博直。

\*しり人(知り人)

六月四日 甲戌 日曜 陰。

朝、散歩して帰。来客、伊藤圭子母。大坂跡見より、そら豆着。

六月五日 乙亥 月曜 晴。

朝、散歩して帰。

受 御寺御所より、そら豆着。

六月六日 丙子 火曜 雨。細雨にて午下雨止。

朝、散歩して帰。正午五軒町に行。素謡会を催す。会するもの、中山栄子、茂木栄子、福田芳子、忠子、すま子、余、愛治郎、桃子、茂木の佐藤、観世、はし岡、津田。実に一同歓極つて六時帰。余等、八時帰。

\*はし岡(橋岡)

(六月七日、記載ナシ)

六月八日 戊寅 木曜 晴。

朝、散歩して帰。

六月九日 己卯 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

六月十日 庚辰 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下二時より此度設立すへき発会の相談会ニ付、校友会、特別、及卒業生等六拾四人来会す。相談まとまる。後、志賀氏講話、三上三次氏講話有て、一同歓尽して帰。六時也。

\*三上三次氏(三上参次氏)

六月十一日 辛巳 日曜 雨。

午下二時より九段階行社ニ行く。愛国婦人会、祝捷会、閑院宮御凱旋とを兼て祝宴に会す。閑院宮両殿下、東伏見宮妃殿(下)、梨本妃殿下、其外陸海軍おもなる人、内閣大臣たち、賑々しき事也。六時帰。

九段行、車出。

発 御寺の御所えのし梅一箱出す。

\*階行社(偕行社) \*祝宴(を(ママ))に \*のし梅(熨梅)

六月十二日 壬午 月曜 入梅。雨。

課業例の如し。来客、斎藤仁子、橋本太吉。

受信 田中静子、書至。

六月十三日 癸未 火曜 晴。

午下一時より三河台山内家に行、三時過より高樹町に行、六時帰。

来客、石山すま子、一宿。

麻布青山行、車出。

六月十四日 甲申 水曜 雨。暴風、午下二時頃より止。

朝、散歩して帰。絵はかき五十枚つゝ、東伏見宮殿下、加茂巖雄、大炊御門重孝、明才地三四郎。外三十枚つゝ、中島雷三、長尾収一。

\*絵はかき(絵端書)

六月十五日 乙酉 木曜 晴。82(度)。

朝、墓参して帰。来客、関博直。予、午下二時より御所藤袴様御局え参る。近日、皇后宮葉山行啓供奉ニ付御暇乞方々、先代公知卿史伝編輯ニ付種々申合して、午下五時過帰。此夕幻灯会を催す。正定寺中沢善久。

六月十六日 丙戌 金曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

六月十七日 丁亥 土曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

六月十八日 戊子 日曜 雨。朝小雨、已而晴たり。夜また雨。  
朝、泰帰宅す。津田弘視来る。夜八時帰る。

六月十九日 己丑 月曜 雨。  
朝、児玉氏之行而帰。

六月二十日 庚寅 火曜 雨。  
来客、中村元嘉細君、はし岡。

\*はし岡(橋岡)

六月二十一日 辛卯 水曜 晴。

めつらしく雨始てはれたり。来客、浦四三子。軍艦日進加茂氏より端書の御礼状来る。  
発 大坂今幾多、御花料、金貳円、浴衣地一反。

(六月二十二日、二十三日、記載ナシ)

六月二十四日 甲午 土曜

書至、軍艦豊はし中島電三氏より。

\*軍艦豊はし(軍艦豊橋) \*中島電三氏(中島雷三氏)

六月二十五日 乙未 日曜 曇。雨、已にして晴。

書至、軍艦春日大炊御門重孝君より、過日生徒の絵はかき贈りたる御礼状と、春日にて出来たる海戦軍歌来る。

受 閑院宮御息所殿下より、金三十円。九条家より千疋。

\*絵はかき(絵端書)

六月二十六日 丙申 月曜 雨。朝雷鳴、已にして晴。  
課業例の如し。来客、岩倉梭子、万里小路通房。

六月二十七日 丁酉 火曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

六月二十八日 戊戌 水曜 雨。

来客、岩倉梭子。

六月二十九日 己亥 木曜 朝雨、已而晴。

朝、上野美術協会にて**絵葉かき震覧会**をみる。面白し。午下三条家に行。野世氏に逢て帰。帰途、岩倉梭子様を訪て帰。此夕、大炊家政様の**畜音器**アリ、**楽**のしむ。

発 大坂今幾多氏え返書。

\***絵葉かき震覧会**(**絵端書展覧会**) \***畜音器**(**蓄音器**) \***楽**(**た**)

六月三十日 庚子 金曜 陰。

(コノ日、記事ナシ)

(七月)

七月一日 辛丑 土曜 雨。

朝、墓参して帰。桃子、君子、東宮御所に参る。本日より半日授業。朝七時三十分始り。受 東宮妃殿下より御召一反。浜荻様より白絹一疋、金三十円。宮本氏、ちゝみ縞。

七月二日 壬寅 日曜 晴。

午下早々高輪御殿に参り、**絵はかき**、汲泉献上する。麻布御殿、東伏見宮、北白川宮にも参り、同しく献上して帰。来客、姉小路公政、石山基陽、三治郎。

\***絵はかき**(**絵端書**)

七月三日 癸卯 月曜 晴。

課業畢る。午下早々、予、正子、斎藤供に大森津田氏へ行。蒲田菖蒲園に行、草花をみる。菖

蒲もはや過たれと沢山あり。紫陽花、桔梗、天子牡丹、洋花など、さかりにて堀切などはとても及ばぬ事。方々逍遙して帰。夕餐を喫して八時。此時、弘視帰宅。汽車まで送りて来る。

七月四日 甲辰 火曜 晴。

来客、甘露寺光子様、武者小路万子、成らせられる、夕景迄。

受 万子、白しま一反。書至、葉山良子さまより。

七月五日 乙巳 水曜 小雨。

来客、万里通房、大森安田細君、茅原富士。

受 出征軍人明才地三四郎、金三円。訃音、跡見幾代。

七月六日 丙午 木曜 晴。

課業畢る。午下早々児玉氏に行。暫時閑話して帰。

発 \ 絹上布、三河や、十三円。 \ 愛国婦人会費、二円。 [東洋夫人会](#)会費、一円五十銭。

\*[東洋夫人会](#) (東洋婦人会)

七月七日 丁未 金曜 晴。 65 (度)。

発信 [清国](#)さ、[木曾比子](#)え。

\*さ、[木曾比子](#) (佐々木曾比子)

七月八日 戊申 土曜 晴。

課業畢る。泉会第一会日ニ付当番なる三条あつ子、三条末子、千家信子、江副静子、松平岳子、午前より来られて源氏講義を聞れる。午下一時三十分迄には七十四名之會員集まられ、二時、岸上博士、鯛の研究せられたるを講演せられ、三時畢而、庭中に一同写真撮影する。五時退散。

七月九日 己酉 日曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、尾崎三良、浜原氏使小池清。葉山良子さまより公知卿遺稿着。

発 書をよす、跡見暉一え香料千疋。

七月十日 庚戌 月曜

早起。散歩して帰。午早々堀田氏へ行。桃子、君子同行。夕景帰。来客、岡崎忠子。

発 葉山姉小路さまえ野菜もの出す。

受 女官様かたより十五円。

七月十一日 辛亥 火曜 雨。

朝、散歩して帰。書をよす、葉山姉小路良子、関博直、原安子、東伏見宮殿下え、長尾収一。  
来客、石山すまま、一宿。京都御寺御所より、うつら豆、なす、唐からし着。

発 はし岡え五円。

受 松平妙子、五円。

\*石山すまま(石山すま子) \*なす(茄子) \*はし岡(橋岡)

七月十二日 壬子 水曜 雨。88(度)。

朝、散歩して帰。来客、堀田伴子、和子、点灯比帰られる。

受 堀田氏より千疋。藤堂氏より二円。

七月十三日 癸丑 木曜 晴。夕方より雨。88(度)。

朝、散歩して帰。来客、関博直氏。

七月十四日 甲寅 金曜 晴。89(度)。

朝、散歩して帰。来客、姉小路延子、賀田菊子、松永道子、清水初子。

七月十五日 乙卯 土曜 晴。90(度)。

朝、墓参して帰。正午より中元二廻る。戸田氏より北白川宮様、閑院宮様、三条家より高樹町  
に行て帰。七時なり。来客、中村元子、御礼ニ来る。

受 閑院宮御息所より白あかし一反。中村元子、白絹一反。茂木氏、あかし。酒井氏、金二円。  
\*白あかし(白明石) \*あかし(明石)

七月十六日 丙辰 日曜 晴。

早起。土方伯を問ふ。公知君伝記序文を頼む。暫時閑話して帰。来客、田中久右衛門氏、三治郎、中村元嘉氏。軍人十軒え十円遣す。

発 書をよす、中山栄子、房州重たけ、御寺御所、宝楽道春。  
受 田中久子、五円。

\*重たけ(重威)

七月十七日 丁巳 月曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、角田いよ子。

発 \ 雑費済、金拾九円廿三銭也。

七月十八日 戊午 火曜 晴。

朝、散歩して帰。朝、歯医渡辺へ行、奥歯一本抜かせる。

七月十九日 己未 水曜 雨。

早起。散歩して帰。来客、山形きく、駒。朝、渡辺歯医師へ行而帰。  
発信 山形きくえ六、七、二ヶ月分、金六円。

七月二十日 庚申 木曜 土用入。晴。夕景より雨ふり出し、夜大雨。

早起。散歩して帰。来客、閑院宮御使松井氏、日本園芸会伊藤延次。

七月二十一日 辛酉 金曜 晴。

課業畢る。揮毫もの沢山。来客、玉枝。

七月二十二日 壬戌 土曜 晴。

朝、墓参して帰。課業畢。生徒一同運動場に参列。授業納二付、告別之詞を伸て一同退散す。  
書をよす、土方伯、能勢氏、みの遠藤。書至、土方伯、麻布折田氏、青森加藤氏子。

\*みの(美濃)

七月二十三日 癸亥 日曜 晴。

朝、散歩して大炊氏、姉小路氏え暑中尋問して帰。塾生大概帰省する。

七月二十四日 甲子 月曜 晴。

朝、散歩して帰。朝八時、[愛国夫人会](#)ニ参集す。米国大統領令嬢アリス・ルーズベルト氏歓迎之件。右紀念之贈り物、絹本、及扇子絵画之依頼アリ。議事畢而帰。右庶務課長大久保高明来る。午下三時出門。余、桃子と同じく新橋へ行。岡本美子も来り随行。四時廿分汽車にて鎌倉小町園ニ着、一泊。

発 小町園女中え金五円。

\*[愛国夫人会](#) ([愛国婦人会](#))

七月二十五日 乙丑 火曜 晴。70 (度)。

朝の風色極めて清し。朝飯済て八幡え詣す。帰路、閑院宮姫宮殿下、若宮殿下にも御逢ひ申上、誠に珍らし。帰園。主人の願に依り紕地一幅揮毫す。昼飯済て主人、時美子の案内にて江の島に詣す。一茶亭にて携へたる弁当を開き、松風浪の音すゝしき処にてゆる／＼と遊びて、又電車にてたのしく帰園。湯に入、夕飯済せて七時の汽車にて帰。

七月二十六日 丙寅 水曜 小雨。70 (度)。

朝八時頃より高樹町乾氏の病を問ふ。十一時去て、田中氏を問ふて石山氏に行て帰。来客、万里小路伯。

受 万里氏、金五拾円。

七月二十七日 丁卯 木曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(七月二十八日、三十日、記載ナシ)

七月三十一日 辛未 月曜 雨。

来客、岡崎国嘉子、橋岡久太郎。

発 銀行に預ける、金百円。[はし岡](#)え金五円。

\*はし岡(橋岡)

(八月)

八月一日 壬申 火曜 晴。

朝、墓参して帰。午下四時より、予、愛治郎、桃子、鶴子、弘と共に、上野停車場に行。加茂巖雄凱施せらるゝに付、迎ひに行。大元氣ニ而万歳唱し候。已而帰。

\*加茂巖雄(加茂巖雄) \*凱施(凱旋)

八月二日 癸酉 水曜 細雨。

早起。散歩して帰。来客、河鰭実文、葉室後室、内海氏代教員。書をよす、九鬼鋪子、小早川式子、吉田治子、松子、万里直房、片岡歌子、稻吉吉子、五十畑時子、浜野よし子、蜷川菊子、岩上愛子、金子作子、能勢基章、土方久元。本日より法華経揮毫をはしむ。

八月三日 甲戌 木曜 晴。

朝、散歩して帰。九時より寺内陸相を訪問して、夫人と旧を話して去。閑院宮様へ暑中御機嫌伺ひ、御息所様拝謁して種々御咄し申上、十二時帰。靖子、田舎より帰る。

八月四日 乙亥 金曜 小雨。

小包物及書をよす、岡山津田、美濃遠藤、青木氏、天下茶や寺田、木津跡見、京都大聖寺。はかき、土井早苗、藤倉竹子、平田さた、矢内蝶子。来客、石山すま子、安富幾子。

\*天下茶や(天下茶屋) \*はかき(端書)

八月五日 丙子 土曜 晴。

朝、散歩して帰。朝、上野一番汽車にて弘、小川、日光見物ニ出立す。泰、此度中野電信隊ニ入営す。

八月六日 丁丑 日曜 晴。

朝九時より堤氏え行。三男秀雄君之死去ニ付弔詞を伸。それより三井得右衛門氏ニ行。半歌仙会ニテ終日楽しんで、夜八時帰。来客、津田弘視、岡崎忠子、良子。

八月七日 戊寅 月曜 晴。

朝、散歩す。弘、小川、午下三時頃日光より帰。

八月八日 己卯 火曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、松方氏使 子供入学願ニ付、許可ス、加茂巖雄、島田郁子、石神井豊田氏、早苗之卜、岡崎国良。夜、もゝ子、縫子、大森より帰る。

\*加茂巖雄(加茂巖雄)

八月九日 庚辰 水曜 晴。88(度)。

朝、神楽坂迄散歩して帰。終日揮毫する。

八月十日 辛巳 木曜 晴。

早起。散歩して帰。揮毫ものする。

八月十一日 壬午 金曜 晴。

曉四時より、余、桃子、すま子、弘等と散歩して上野不忍池畔の蓮花を見ながら入谷に行。盆栽面白きを、白蓮、まつり花、朝貌ニを買て帰。来客、安田暉子、姉小路延子、晨子。

八月十二日 癸未 土曜 晴。

朝、石山すま子帰宅す。

八月十三日 甲申 日曜 晴。

朝、日比谷公園に散歩して帰。来客、泰、中野に転隊してより始而帰宅す。栄子も来る。庭園にて家庭の写真撮影させる。石山すま子、一泊。

八月十四日 乙酉 月曜 雨。

本日よりすけ川わたりに旅行する筈、此行、予、愛治郎、正子、すま子の四人連の処、雨にて明日に延引する。

\*すけ川(助川) \*わたり(辺り)

八月十五日 丙戌 火曜 雨。

此日も雨にて先旅行中止となる。来客、嘉山氏母堂と梅子、岡崎氏。

八月十六日 丁亥 水曜 晴。

朝、すま子帰宅す。

(八月十七日、十八日、記載ナシ)

八月十九日 庚寅 土曜 雨。

早起。散歩して帰。来客、岡崎子、石山基陽。岩浪稲子来る、暫時にして、予、桃子、鶴子と三越え同伴する。安田輝子も約ありて一緒に成る。買ものして各三方に別れて帰。

八月二十日 辛卯 日曜 細雨。

早起。散歩して帰。朝、藤堂家に行。弔詞を伸、棺前に拝して帰。葉山良子さまえ書をよす。

八月二十一日 壬辰 月曜 細雨。

藤堂高義子葬式ニ付会葬ス。小川代理ヲ勤ム。来客、江副静子。

八月二十二日 癸巳 火曜 雨。

早起。墓参して帰。早苗のとゝ来りて、かゝ連て帰ったり。書をよす、若山久子、梅野くら子、吉宗あさ、加藤民子。来客、加藤幸子、夜、大炊御門家政。

八月二十三日 甲午 水曜 雨。

来客、大和光。

八月二十四日 乙未 木曜 晴。

曇天ながら午下三時比一寸晴、日影を見る。実に珍らし。已而又陰なり。来客、渡辺節子久々に面談する。

受 渡辺節子、金三円。

八月二十五日 丙申 金曜 雨。65(度)。

来客、石山基陽、岡崎国良子。書をよす、博直子え。

八月二十六日 丁酉 土曜 雨。

有栖川宮兩殿下御帰朝。

八月二十七日 戊戌 日曜 晴。

来客、泰、電信隊より帰宅す。暫時にして帰隊す。三谷原氏より電話にて明日御出いかゝやと申来る。即、明日問ふ事を約す。

八月二十八日 己亥 月曜 陰。

朝、九時廿分新橋汽車にて横浜に行。予、及愛治郎、桃子三人同行す。空も曇りながら段々と晴わたりたり。横浜に着。山本氏迎の車にて直に三の谷に行。富太郎、安子、喜んで迎えらる。新築茶亭に案内せらる。此亭や、第一絶頂にて眺望又殊なる風色にて、午餐会席にて世の外なる楽しみ也。畢而、鎌倉より取寄せて建築したる御谷館に行。すゝしさ限りなく、二階百畳間にて壮快なり。愛治郎、四時過帰京す。予、桃子は一泊す。

八月二十九日 庚子 火曜 晴。

朝起て、予、桃子と海浜に出。大汐にて根岸わたりえ行、貝など拾ひて遊ぶ。久々に海に入。また所々庭中ニも手入も有て一層趣味有り。午下四時廿分急行にて帰。

\*わたり(辺り)

八月三十日 辛丑 水曜 晴。

講和談判成立。号外続々来る。今日迄もたのみに思ひし講和も日本の要求ハ一もならず、償金

ハ一文も払はず、樺太を分割し、遁竄軍艦引渡し、及絶東に於ける露国海軍力制限に関する講和条約原案第一条、第十一条を撤回せりと、実に日本ハ如何して人の善きや、国民一般の不満足言へからず。

\*撤回(撤回)

八月三十一日 壬寅 木曜 晴朗。82(度)。  
八朔。

(九月)

九月一日 癸卯 金曜 晴。  
朝、墓参して帰。奥大掃除。

九月二日 甲辰 土曜 晴。  
早朝より揮毫する。

九月三日 乙巳 日曜 晴。83(度)。  
早起。居間掃除する。塾生一人帰校す。

九月四日 丙午 月曜 晴。85(度)。  
早起。揮毫する。始めて暑気。天候回復す。来客、閑院宮御使松井氏、御教育掛御同道、姫宮殿下御養生之為、来三月迄鎌倉御滞在之趣申さる。久枝氏父、塾生八人帰校す。

九月五日 丁未 火曜 晴。74(度)。  
朝より塾生続々帰校す。晝至、米国石山基威八月十三日発にて講和談判開始之趣続々申通すべくと也。今也此不満足なる講和にてさそ奮概せらるゝならむ。本日ハ日比谷公園にて講和問題之演舌をさまたけ、公園の門ハ尽く棒にて閉たり。人民を入れず、警官抜刀にて切付たり。夫より此騒動を引起したりと云。

\*奮概(憤慨)

九月六日 戊申 水曜 晴。85(度)。  
授業始をなす、朝八時より。然るに炎熱難堪、午時にて業畢。来客、大坂高岡弥太郎。書至、  
権太志賀氏より。朝より新聞待かねたるに十時過来る。

満都混乱、抜刀の斬込、官邸の放火、交番の焼撃、軍隊の繰出、内相官邸ハ蒙々たる砂塵  
に包まれ、其状宛も活戦場、突撃抜劍数名の負傷者を生したり。軍隊来れり。一隊近衛歩  
兵、抜劍の士官引率せり。付劍にて現場に走せ付ケ、一声号令群衆を背面より囲みたり。

此夜八時、わか町内の交番、暴徒の為に焼失される。

\*活戦場(合戦場)

九月七日 己酉 木曜 細雨。

課業例の如し。戒厳令を行ふ。此夜も向ふの耶蘇教会を焼払ふへくも、夕景より大雨となりて、  
暴徒呼こ笛をふきたれて雨中為、人数来らず、兵士の警戒有て災をまぬかれたり。向ふの日比  
野にも附火したるものあれば、直に誰何され拘引となる。

\*呼こ笛(呼子笛) \*ふきたれて(ふきたれど) \*日比野(日比谷)

九月八日 庚戌 金曜 晴。

課業例の如し。

九月九日 辛亥 土曜 晴。

早起。氷川神社に参詣して帰。此暴動のため、祭典も延引となる。

午下一時半より泉会を開く。来会者三十六人也。講演、角田竹冷氏。五時済。

(九月十日、記載ナシ)

九月十一日 癸丑 月曜 晴。89(度)。

課業如例。来客、石川氏細君。炎暑当年第一。夜は熱むせ帰りてねむられぬ。これにて米も回  
復したり。先可喜。

\*むせ帰りて(むせ返りて)

九月十二日 甲寅 火曜 晴。85(度)。  
課業如例。来客、称津氏。書をよす、葉山姉小路さまえ、清国佐々木曾比子え絵端書十二葉とを送る。月清光、実に戸をさし兼て不就眠。

九月十三日 乙卯 水曜 晴。仲秋、月清光。84(度)。

朝五時、愛四郎、重威帰房二付霊岸島迄行而帰。酒田伯孝之葬式二付、愛治郎会葬す。大森に往而夜十時帰。号外来。昨十二日横浜演舌会より又々暴徒起り、派出所所々焼払たるよし。何の訳やら其源をしらす。

\*所々(諸所)

九月十四日 丙辰 木曜 晴。84(度)。

課業例の如し。来客、関博直子。

九月十五日 丁巳 金曜 晴。85(度)。

朝、墓参して帰。塾気、夜二入ても八十五度。

\*塾気(塾気)

九月十六日 戊午 土曜 晴。85(度)。

朝、上野絵端書会を見る。珍ら敷もの数多あり。それより牛込山本氏を訪ふ。此度三笠遭難二付、安治郎君上陸中にて無難のよしにて、先々安堵して帰。来客、森政子、退校二付其母と来る。

受 森政子より金五円。

九月十七日 己未 日曜 陰。夜雨ふる。70(度)。

朝、戸田氏二行。幸子さま、此度松平直平子と結婚の約齊ひたる二付、御祝として白紋羽二重箱入持参する。已而また田村氏を問ふ。昼飯を喫して帰。来客、橋本太吉氏此度縫子退校御礼二来る、よし子大森より来る、弘視も夜二入て来、九時帰。

受 橋本縫子より金廿円。

九月十八日 庚申 月曜 雨。67(度)。  
課業例の如し。

九月十九日 辛酉 火曜 雨。65(度)。

課業例の如し。松方増子、**微怠**にて帰宅する。来客、志賀鉄千代。

\***微怠**(微恙)

九月二十日 壬戌 水曜 雨。63(度)。

課業例の如し。

九月二十一日 癸亥 木曜 彼岸入。晴。

課業畢る。午下三時より田中氏を問ふ。それより石山家に行、暫時にして帰。

発 乾氏え八、九、十、三ヶ月分出ス、金七円五十銭。

九月二十二日 甲子 金曜 晴。

朝、墓参して帰。

九月二十三日 乙丑 土曜 晴。

来客、石山すま子、午下二時よりすま子と同しく両大師に参詣して帰。

発 御志、金壹円。

九月二十四日 丙寅 日曜 晴。

朝より祖先祭典執行す。秋季皇霊祭。天晴朗、光明赫々たる日也。京都御寺御所より唐からし、ふち豆着。来客、津田夫婦、一泊。

九月二十五日 丁卯 月曜 晴。

課業例の如し。安田錐蔵母死去二付、津田弘視、愛治郎も会葬す。午後、夫婦帰。

九月二十六日 戊辰 火曜 晴。

課業例の如し。来客、石山すま子、予、桃子と三人連にて両大師え参詣して帰。弘前加藤民子より檜子着。

九月二十七日 己巳 水曜 晴。

朝、散歩して帰。彼岸結願。一周間晴続にて好時侯也。来客、下瀬氏細君、石山吉子、基弘、伴子と。木津跡見法城え結婚祝、白紋羽二重箱入を贈ル。京都御寺御所え焼海苔二鎌を贈る。津久み米子より梨子着。

\*一周間(一週間) \*侯(候) \*二鎌(二罐)

九月二十八日 庚午 木曜 陰、晴。雨、又晴。

課業例の如し。来客、姉小路延子、医学士橋田茂重妻。

九月二十九日 辛未 金曜 晴。

課業例の如し。夜、愛国夫人会長岩倉久子、福島より帰られ候二付九時四十分上野着、御迎ひに行。皆々無事に帰られ候。

\*愛国夫人会長(愛国婦人会長)

九月三十日 壬申 土曜 晴。

来客、児玉若夫人。

(十月)

十月一日 癸酉 日曜 雨。60(度)。

雨のせいか頼に冷氣にて袷着初る。泰帰る。暫時にして帰隊する。

十月二日 甲戌 月曜 晴。

課業例の如し。午下、清水氏、乾氏、閑院宮邸に詣し、御息所と閑談して帰。来客、来栖貞子。  
発 乾氏え五円。車夫え一円。

十月三日 乙亥 火曜 晴。

課業例の如し。来客、加藤たみ子、入塾願ひに来る。

発 三河や松、金五円。

受 博文館、金五円。

十月四日 丙子 水曜 晴。

課業例の如し。小松宮様より、今日午後手誘ならハ参る様にと仰せ戴き、御請申上て、午下一時より、橋場信受院様え御訪問申上。久々にて御喜び、桜井おますさまも御出にて珍らしく、しはらく御話し申上て、夫より小松様え参り、御息所御案内にて、御建築の御新御殿三つは四つはの殿造り実に御所の様に結構を尽されたり。種々御話し共久々にてゆる／＼と申上、御夕食いたゞきて点灯後去る。

受 柏原五十子、金二円。

\*手誘(手透)

十月五日 丁丑 木曜 晴。

課業例の如し。

十月六日 戊寅 金曜 雨。

課業例の如し。

十月七日 己卯 土曜 晴。

午下二時より電車にて幸倶楽部に行。此度、英国艦隊歓迎二付、種々相談会也。五時畢る。日比谷公園の秋艸、奇麗に咲みたれたり。三時頃、一切りの村雨降来りて直に晴たり。来客、中島孝行妻。書画を贈る、群馬県関不眠氏え。

\*一切り(一しきり)

十月八日 庚辰 日曜 晴。

午前十一時より、予、李子と同しく深川堀田氏に行。研究会。撰択集九十九号。晡時帰。

十月九日 辛巳 月曜 陰。

早起。散歩して帰。課業如例。来客、石山すま子。書至、矢島政子、檜子着。

受 橋場三条家、金千疋。

十月十日 壬午 火曜 晴。

早起。散歩して大炊氏、姉小路伯を訪て帰。課業例の如し。博文館女学世界え画を出す。書をよす、小池道子。

受 日本絵葉書会、金拾円。

十月十一日 癸未 水曜 晴。夜に入て七十度。

朝、散歩して帰。英国艦隊本日横浜着。東京市ハ歓迎之準備に忙し。後の月見、宵より見影さやけき嬉しき夜なりけり。博文館より姉小路公知伝落成。書をよす、橋場三条様、葉山姉小路様、北海道矢島氏え。

\*見影（月影）

十月十二日 甲申 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、関博直、石山すま子。英国艦隊佳賓歓迎にて市中賑々しく、門毎に日英の国旗をかゝける。此夜、月清光、昼の如し。予、もゝ子と共に月に乗して本郷迄、市中景況をみ而帰。書至、姉小路良子。

十月十三日 乙酉 金曜 晴。

早起。電車にて日比谷公園の景況を観る。正門にハ新に緑門をこしらへ、歓迎の場所、余興場所、実に盛を究めたり。未たかゝる立派なる事ハ始めて見たる也。それに此頃の天気ハ実に光明々たる空天にて、英国にはか様なる天気ハあるましくやと思ひ候。賓客ハ此天氣に驚きたらんと思ふなり。市中飾をもみつゝ八時帰。課業例の如し。法華経五、書写畢。来客、田中光子、作子、其母とも御礼に来られる。書をよす、山田旭花様、加藤宇兵衛、坂田公栄。書至、旭花

様、坂田、加藤氏。

受 田中作子、金拾円。

\*緑門(緑門) \*究めたり(極めたり)

十月十四日 丙戌 土曜 晴。

朝、散歩して帰。第二木曜泉会日。午下一時半、会員集席ス。二時、高木謙寛氏食物の衛生談、二時間半而畢。来客、島田三郎。法華経六卷二かゝる。

\*第二(木(ママ))曜

十月十五日 丁亥 日曜 晴。

朝、墓参して帰。午下一時より一番町三井氏に行。素謡会。三井高光児、鷺開きにて、本日誕生日とを兼て祝宴を設けられる。予、八時過帰。

\*誕生日(誕生日)

十月十六日 戊子 月曜 細雨。

朝、細雨。終日ふる。課業例の如し。来客、万里伯。

十月十七日 己丑 火曜 晴。

愛治郎外に有約、朝五時より妙義山紅葉を賞するため旅行す。予、鶴子と同じく水道橋より電鉄一周する。赤坂葵町辺より閑院宮、伏見宮、東宮御所わたりの風光、実に秋日和にて一入快闊。外堀を砲兵工廠に帰る。一時間位也。

発 金壹円。

\*砲兵工廠(砲兵工廠)

十月十八日 庚寅 水曜 雨。雨は極細雨、折々ふりたり。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午前十一時より五軒町に行。素謡会の準備いたし候。一時頃迄には岡崎忠子、石山すま子、中山栄子、茂木栄子、福田芳子、田村長子、もゝ子、はし岡、観世清廉来集。二時先始り、五番畢比点灯す。皆々美音よくとゝのひて地謡ひもおもしろく心ゆく計の楽しさ也。皆々御携之御菓子、又御すもしにて六時過散したり。

発 当日会費、金壹円。

\*はし岡(橋岡)

十月十九日 辛卯 木曜 雨。

課業例の如し。愛四郎、善光寺より夜七時比帰。紅葉いまた早きよし也。

十月二十日 壬辰 金曜 晴。 園田孝吉氏、園遊会午後三時。

課業畢る。午下二時より白金三光坂園田氏に行。ノーエル大将夫婦、令嬢、其外各国公使、日本総理大臣、内閣大臣より実業家千人余と云。園田氏開会之辞、ノーエル大将の演説、畢而一同写真撮影す。五時全退散す。余ハ津田夫婦と同じく岡本え行。晚餐済して、又招待之歌舞伎座に行。此座裝飾実を目を驚かす計也。実業団体よりノーエル大将一行を歓迎する為也。始め園田氏英語演説、又ノーエル大将の謝辞、畢而連獅子、娘道成寺、芸妓千代の契り手躍、お杓のおとり迄見て帰る。十時也。

\*歌舞伎座(歌舞伎座) \*お杓のおとり(お酌の躍り)

十月二十一日 癸巳 土曜 晴。

余、愛治郎、弘、鶴子、桃子と同じく朝八時三十分の汽車にて横浜原氏え行、三ノ谷にて一宿。又万里伯、裏松父子、堤子、入江子も原氏にて一宿。此記事日曜に。皇后陛下葉山より御還啓あらせられる。

十月二十二日 甲午 日曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十月二十三日 乙未 月曜 晴。

朝八時より一同本牧十二天原氏の席に行。原氏、店員、其外銀行員の場所にて園遊会の催しにて観鑑式拝観には実に全体を拝観せらる。海上一面の艦隊列を立て、九時、陛下御召艦に召さるゝと、一同祝匏廿一発つゝ、壮快。対馬海境の海戦かくやと想像せらるゝ。余等の一行、又小船にて拝観する。御式全く済せられるを拝して帰。夕飯後、又十二天に行て、イルミネションを拝見す。昼よりも美観也。八時比帰る。万里一行もとても帰京は六ツヶ敷て原氏に一宿。

\*祝砲(祝砲) \*対馬海境(対馬海峡)

十月二十四日 丙申 火曜 晴。

朝起。客一同庭園見物。海二行て水に這入ル方もあり。朝飯済て十一時暇を告て帰。十二時三十分汽車にて帰京す。東郷大将歓迎に付、東京市之招待にて古今未曾有の盛大なる盛典也。

十月二十五日 丁酉 水曜 晴。

課業例の如し。午下二時、突然、泰、除隊して帰。一同喜ひ限りなし。来客、富永発寂。

\*富永発寂(富永発寂)

十月二十六日 戊戌 木曜 陰。陰、後晴。

課業例の如し。来客、万里伯、大炊御門重孝。午下四時より泰除隊の祝宴を開く。九時済

十月二十七日 己亥 金曜 晴。

課業畢る。午下より児玉氏、寺内陸相、大炊御門を訪問して帰。觀世夜能を見る。九時帰。

発 散敷代、二円五十錢、弁当、九十錢。

\*散敷(栈敷)

十月二十八日 庚子 土曜 晴。

午下一時より北白川宮御十年祭、豊島岡え参拝いたし候。四時帰。来客、姉小路伯、大森栄子。

十月二十九日 辛丑 日曜 晴。

課業例の如し。昨夜、遠藤照子俄然病を發して奥も桃子も徹夜する。医師井深氏、久世氏も来る。一時頃、漸靜かに成り、朝十時頃、佐々木病院に入院する。此記事、月曜日となり。

(十月三十日、記載ナシ)

十月三十一日 癸卯 火曜 晴。

朝、姉小路良子様より園基祥さま一昨夜御死去のよし申来る。午下一時より青山園家え悔に参

る。御暇乞もいたして帰る。  
発 園様え香料、金千疋。

(十一月)

十一月一日 甲辰 水曜 小雨。本日午後一時、偕行社出席、会費三十銭。  
早起。墓参して帰。課業例の如し。午下一時より偕行社に行。愛国婦人会奥村氏一行の満洲慰問の状況を演舌す。五時帰。久岡あさ子より魚鼓着。  
発 愛国婦人当日の会費、金三十銭。

十一月二日 乙巳 木曜 陰。

課業例の如し。正子、横須賀に行、軍艦拝観する。夜八時帰。来客、向山倉子、其父、退校御礼に来る。京都河井浜江より織物業かき六枚着。珍らしき物也。書をよす、京都久岡あさ、河井浜、岩浪稲子。

受 向山氏より白紋羽二重一反。

\*織物業かき(織物端書)

十一月三日 丙午 金曜 天長節。雨。

昨夜より雨。生徒一同拝賀式執行ス。九時参集。生徒一同六教室ニテ君か代を唱ふ。次、勅語朗読。天王陛下万歳、皇后陛下万歳三唱して式全畢。二階教室にて茶菓、柿を出す。菊花紅白棹菓子。生徒一同歓を尽して十一時退散す。来客、橋本太吉、清水連郎。予、桃子、鶴子と夕景より新橋附近の景況を見る。雨に逢て清水氏二寄、傘をかりて帰。九時過也。

\*天王陛下(天皇陛下)

十一月四日 丁未 土曜 雨。酒井伯爵より招ニ応す、午下三時。

休業。午下三時より酒井伯爵家招に応す。戦勝記念之温室美麗に御出来ニ相成。御主人御案内にて各温室を観る。皆珍ら敷ものゝみ也。夕餐御饗応にて、後、御主人のヒヤノ、鶴亀、勸進帳演奏せらる。感佩之至り也。八時後帰。

いてゝきは松ふく風も雨の音も物みなりの声にそ有ける

受 石沢尚子より檜子一箱着。

\*ヒヤノ(ピヤノ)

十一月五日 戊申 日曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十一月六日 己酉 月曜 晴。

課業例の如し。午早々より愛国婦人代表者にて、新宿停車場え軍隊凱旋ニ付、迎ひに出る。午下一時四十五分と三時四十五分とに逢て帰。此間松平直敬子に行て休憩して六時帰。

十一月七日 庚戌 火曜 晴。45(度)。

朝、始めて霜を見る。来客、閑院宮御使、橋岡。

発 橋岡え金五円。観世え金千疋。

十一月八日 辛亥 水曜 晴。

課業例の如し。

(十一月九日、記載ナシ)

十一月十日 癸丑 金曜 晴。 閑院宮御誕辰午前十一時三十分参殿之事。

朝、散歩して帰。午前より閑院宮に詣す。戴仁親王殿下御誕辰御昼餐御倍食。御鄭重なる御料理を賜。畢而御庭園逍遥して御写真をとり給ふ。紅葉は少し早し。四時帰。来客、山本安治郎。

\*戴仁親王殿下(戴仁親王殿下) \*御倍食(御陪食)

十一月十一日 甲寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。生徒一同遊戯会、九時始り十二時迄。午下一時よりいつみ会。当日之講演、島田三郎氏、女子に關係の件、実に結構面白く承り候。来会者五十九人。五時退散。

十一月十二日 乙卯 日曜 晴。

朝十時より、予、正子、桃子と同しく深川堀田氏二行。研究会。日晡帰る。

十一月十三日 丙辰 月曜 晴。

朝、散歩して帰。

天皇陛下伊勢神宮に行幸御發輦ニ付、敬意を表する為に休業。予、午下閑院宮に詣ス。四時帰。竹早町女子師範学校火アリ。此記事、十四日火曜日也。

十一月十四日 丁巳 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十一月十五日 戊午 水曜 雨。

朝、墓参して帰。課業例の如し。靖子、早苗の祝ニ付、晚餐祝杯、挙家一同。来客、村田とめ。

十一月十六日 己未 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。靖子、早苗、七歳、三歳之祝ニ付氷川神社ニ参詣して帰。来客、山本久子、此度横須賀移住ニ付暇乞ニ来る。

受 小松宮御息所より千疋。

十一月十七日 庚申 金曜 雨。

陛下神宮御参拝ニ付、一切休業。午前十一時五十分、生徒一同講堂ニ参集ス。校長、**抜ノ言**ヲ畏ミ申ス。一同四拜八平手、遥拝式挙行ス。十二時五分畢。午下五軒町を問ふ。重威親子房州より帰着。夜入而帰。

\***抜ノ言**(**被ノ言**)

十一月十八日 辛酉 土曜 晴。4(度)。

朝九時より閑院宮様ニ詣し、姫宮様方御稽古申上て帰。十二時也。

\*4(ママ)

十一月十九日 壬戌 日曜 晴。 実業之日本社長増田義一事務移転披露式、芝紅葉館。

天皇陛下御凱旋あらせらるゝに付、東京市民熱誠を挙て奉迎する。予、午下一時より紅葉館二行。実に盛会也。園遊会、余興畢而楼上立食済て帰。五時過。来客、**重たけ**、治子、幾子。

\*重たけ(重威)

十一月二十日 癸亥 月曜 晴。 岩倉具明氏宅、婦人法話会園遊会午下一時。

課業畢る。午下二時より岩倉子二行。会する者四十人余、園中にて一同写真撮影する。茶菓中、**園遊**のはなし、余興アリ。畢而別間にておすもしの饗応あり。日暮散会す。予等、五、六人残りて夕飯後、暫時謡なとうたふて帰。九時。

\*園遊(円遊)

十一月二十一日 甲子 火曜 晴。 風つよし。

午下一時より閑院宮え詣し、御稽古上て帰。

十一月二十二日 乙丑 水曜 晴。

課業例の如し。来客、跡見三次郎、清女、山登美津。佐藤芳三郎葬送に付、小川氏を墓前に弔さす。

受 山登みつ潤筆、五円。

十一月二十三日 丙寅 木曜 新嘗祭。 晴。

朝八時より、予、菊江子と同しく九段能楽堂に行。牛込軍人遺族受産会の慈善能也。終日觀而帰。見所ハ実にあふるゝ計也。

発 **散敷代**、金四円也。

\*散敷(棧敷)

十一月二十四日 丁卯 金曜 晴。

課業畢る。絹本秋山水揮毫す。

(十一月二十五日〜二十八日、記載ナシ)

十一月二十九日 壬申 水曜 晴。暖。

朝、予、桃子と同しく朝八時出門、新橋二行。岡崎忠子、石山すま子、福田よし子、皆停車場に來り、九時発汽車にて横浜茂木氏に行。横浜停車場に迎來待。直に戸辺別荘に案内せらる。一休憩して庭中散歩す。紅葉盛り也。觀世清廉、橋岡も來る。午餐後、素謡始る。

第一 弦上すま子、定家芳子、すみた川栄子、三井寺桃子、花蹊。

皆面白く出來たり。夕飯済て六時汽車にて歸。

(十一月三十日、記載ナシ)

(十二月)

(十二月一日〜六日、記載ナシ)

十二月七日 庚辰 木曜 雨。

朝五時起。鷺田菊枝と同しく**砲兵工廠**歡迎旗行列。一万五千人今出門と云。実盛なる行列也。此時より雨降り出して、終日降り通したり。大山陸軍凱旋日、可惜。我校も右二付休業す。東伏見宮様より四時頃より参る様にも仰せ戴き参殿す。御二所久々にて御夕餐も戴き、八時頃迄御咄し申上て歸。宮様明八日御出發。來客、西斎藤宮子、常子。  
受 斎藤常子より帶地一筋。**東伏宮殿下**より金三円。

\***砲兵工廠**(**砲兵工廠**) \***東伏宮殿下**(**東伏見宮殿下**)

十二月八日 辛巳 金曜

昨七日午下一時より姉小路公義伯一周年忌くり上、礪川光円寺にて法事。雨中ながら参詣人も多く、賑々敷相濟たり。

十二月九日 壬午 土曜 晴。暖。

朝、散歩して歸。課業昼迄済て、午下一時半より泉会。集者六十余人。弁士巖谷小波、講演畢

而第四教場にて立食之催しあり。一同歛を尽して五時退散。  
受 安田暉子、金五円。

十二月十日 癸未 日曜 晴。暖。

朝九時より三河台山内子を訪ふ。午餐の饗応に逢て一時過退し、一番町三井氏三行、能を見る。  
七時比帰。

十二月十一日 甲申 月曜

朝、散歩して帰。試筆稽古にかゝる。

(十二月十二日、十四日、記載ナシ)

十二月十五日 戊子 金曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下五軒町を訪て帰。

十二月十六日 己丑 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、**重たけ**、治、いく。

\*重たけ(重威)

十二月十七日 庚寅 日曜 雨。

早起。散歩して帰。大山元帥始陸軍凱旋、東京市大歓迎会。朝より終日之雨。折角催し可惜。  
わか校桜会会員集る者廿余人也。来客、津田夫婦、近日郷里備前え旅行ニ付暇乞に也。

(十二月十八日、十九日、記載ナシ)

十二月二十日 癸巳 水曜 晴。

発 高樹町先生え五人分、金五円。

(十二月二十一日、二十二日、記載ナシ)

十二月二十三日 丙申 土曜

受 園祥子、金三円。九条家、同千疋。浅野とき子、同千疋。

十二月二十四日 丁酉 日曜

発 大和田え金千疋。井深え糸織一反。大炊氏え白紋羽二重一反。

受 松平妙子、金五円。藤堂、同二円。酒井、同二円。

十二月二十五日 戊戌 月曜

発 乾先生え金千疋。同寄附五人分、同五円。

受 女官 藪兼子、吉田鈺子、生源寺、樹下定子、大東豊子、十五円。

十二月二十六日 己亥 火曜 雨。

受 閑院宮、金三拾円。田中久子、同五円。

十二月二十七日 庚子 水曜

今城友子結婚御祝として白紋羽二重一反を贈る。

発 静岡金谷河原村上忠夫、三銭郵券七十五枚返却。菓子代、金壹円四十五銭。帯三筋、同壹円五銭。

十二月二十八日 辛丑 木曜

発 十、十一、十二月分雑費、金五拾九円也皆済。下婢菊え祝義、同壹円。

受 三輪哥子、金三円。

\*祝義(祝儀)

十二月二十九日 壬寅 金曜 晴。

朝より揮毫もの。午下三時頃より、予、姉小路伯、及大炊氏え歳末に行。少々雪ちら／＼ふりかゝる。夕景帰。年始絵はかき二百枚出来す。

今城友子、紅絹一反。

受 柏原いく子、金貳円。今城友子、同五円。三条家、同千疋。

\*年始絵はかき(年始絵端書)

十二月三十日 癸卯 土曜 小雨。

朝起。昨夜よりの初雪つもる事二寸余。正午より空晴たり。来客、万里通房、喜美子も今日迄滞在。

十二月三十一日 甲辰 日曜 晴。

朝より晴陰定まらず。今年は珍らしく万端はやく仕舞事出来、生徒にも病人は一人もなく、**めでたき年の暮なり。**

受 毛利家、金五拾円。

\*めでたき(目出度き)

(明治三十八年会計)

一月(記載ナシ)

二月(記載ナシ)

三月(記載ナシ)

四月 雑費、金廿四円五十銭。

会計より入、金十円。

五月 雑費、金廿五円八十銭。

会計より、十円入。

六月 雑費、拾八円九十銭。

会計より、十円入。